

平成 2 4 年度病害虫発生予報第 1 2 号

平成 2 5 年 3 月 4 日
愛 知 県

普通作物

・留意事項

排水不良はムギ類の赤かび病の発生を助長するので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	やや多い	全域	昨年秋期の発生量が多い 3月の降水量はやや少ない	+ -
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	昨年の発生量はやや多い 3月の降水量はやや少ない	+ -
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並	±

・防除対策

〔ナシ・黒星病〕

発芽前までに速やかに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、I C ボルドー 4 8 Q やデランフロアブルなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤と I C ボルドー 4 8 Q の散布間隔は 2 週間以上あけるようにしましょう。

・留意事項

今後の気温はやや高いと予想されていますが、近年は気温の変動が大きくなっているようです。果樹の生育ステージに留意した栽培管理や防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は、昨年秋の発生量が多かったほ場では、第一次伝染源となる越冬菌量が多いと考えられます。枝病斑は見つけ次第除去し、開花直前の防除適期を逃さないように防除しましょう。

カキでフジコナカイガラムシの発生量が昨年秋に多かったほ場では、越冬密度が高くなっていると予想されます。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生量が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の降水量はやや少ない	- -
	べと病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はやや少ない	± -
トマト (施設)	疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はやや多い	- -
	葉かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はやや多い	- -
	ハモグリバエ類	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はやや多い	- -
	すすかび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや多い	± -
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温はやや高い	± +
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや多い	± -
	うどんこ病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや多い	± -
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温はやや高い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや多い	± -
	うどんこ病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	全域	2月下旬の発生量はやや多 い 3月の気温はやや高い	+ +
	ミカンキイロ アザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温はやや高い	± +

・防除対策

〔ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

アフーム乳剤やアルバリン/スタークル顆粒水溶剤などで防除を徹底しましょう。

〔キュウリ(施設)・うどんこ病〕

発病葉は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、トリフミン乳剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔キュウリ(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブルやモスピラン水溶剤などで防除しましょう。本虫は、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス(MYSV)を媒介するので、防除を徹底しましょう。

〔イチゴ(施設)・ハダニ類〕

2月4日発表の「平成24年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

〔イチゴ(施設)・ミカンキイロアザミウマ〕

カスケード乳剤やマッチ乳剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し、薬剤を選定してください。

・留意事項

タマネギでは、気温が高く降雨が続くと、べと病が発生するおそれがあります。発生を確認したら直ちに防除しましょう。また、本病の越年罹病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。

果菜類の灰色かび病は曇雨天が続く、多湿になると発生量が増加します。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。また、罹病部位は伝染源になるので、見つけ次第除去しましょう。

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス(TYLCV)を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

キュウリでは、べと病の発生量が多いほ場があります。施設内を適切な湿度に保つとともに、適正な肥培管理を行い、草勢を低下させないようにしましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病が発生していない親株から穂を採りましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台3月1日発表）

特に注意を要する事項

1週目後半から2週目にかけて気温がかなり高くなる見込みです。

予想される向こう1か月の天候

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。